

福井市安居小学校

令和元年

12月

20日

〒918-8076

福井県福井市

本堂町 4-12

(市外局番 0776)

Tel: 37-1004

Fax: 37-1582

E-mail: ago-e

@fukui-city.ed.jp



今年もすばらしい門松がお目見えしました。



12/8~

毎年PTAの役員様方による手作りの門松が児童玄関前に飾られます。竹藪の中から大きな竹を切り出すところから始まり、綺麗に整えるまですべてが手作りです。

朝早くから集まり、真剣に作ってくださる皆さんに感心しながら、どうして毎年続けて作っているのか尋ねてみると、「親の思いですかね。」と会長さんがぼつりつぶやきました。児童玄関の両側に置かれた門松には、日本の伝統を受け継ぐ習わしだけでなく、いつもあたたかく子供たちを見守り支え続けている保護者の皆さまの熱い思いが込められているのだと、改めて感じさせられました。

社会は大きな変化を遂げ、大人が子供だった頃には考えられないような時代を迎え、その中で育っていく子供たちは、大人の想像を超えた成長を成し遂げています。だからこそ、大人も社会や子供から多くを学び、親として指導者として成長していかなければならないのだと思います。

親が子供を思う思いは昔から変わりません。子供を愛おしく感じ、将来を担う子供たちに大きな期待を抱きながら愛情たっぷりに見守り続けてあげたいものです。

本年も、保護者の皆さま、地域の皆さまには、本校の教育活動に絶大なご理解、ご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。保護者の皆さまからいただいた、学校内での生活や友達との人間関係についてのご指摘、時には、私たち教職員への叱咤激励、さらには、地域の方々からも、登下校での児童の様子や家に帰ってからの生活等についてまで、様々な情報提供やご意見ご質問を賜りましたことは、今年の学校運営の支えとなる貴重なものとなりました。来年も、安居っ子が元気で明るく育っていきまよう、本校の教育活動にますますのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新しい年、令和2年も、皆さまにとって、すばらしい年になりますようお祈り申し上げます。

11/27(水)に「家庭・地域・学校協議会」がありました。

この会は、地区の各代表の方々から、安居小学校の教育に関するご意見を賜り、今後の教育活動に生かしていこうというものです。委員の方からは、登下校路の安全に関わる箇所のことや児童意識調査結果へのアドバイス等をいただきました。また、各団体や地区についての情報交換も行い、様々な機関が協力して安居地区を創り上げていくことを再確認しました。

この学校だよりは、学校のHP (<http://www.fukui-city.ed.jp/ago-e/>)でもご覧になれます。



# ペップトーク

12/7(土) 県PTA連合会研究大会がありました。この中で「ペップトーク」についての講演がありましたのでご紹介します。

ペップトークは、もともとアメリカでスポーツの試合前に監督やコーチが、選手を励ますために行っている短い激励のスピーチです。「Pep」は英語で、元気・活気・活力という意味があります。アスレチックトレーナー岩崎由純氏がアメリカのスポーツ現場で学んだ「勇気を与える感動のスピーチ」を、自分、家族、仲間に伝えるコミュニケーションスキルとして確立いたしました。スポーツ現場はもちろん、家庭で、職場で、教育現場ですぐに実践できるシンプルでポジティブな言葉を使ったコミュニケーションです。

## <ペップトーク 5つの特徴>

- 1 短い・・・・・・・・・・・・・・短くシンプルな言葉で伝える
- 2 わかりやすい・・・・・・・・・・・・・・相手が確実に理解できる言葉を使う
- 3 肯定的な言葉を使う・・・・・・・・・・・・・・「これはチャンスだ」
- 4 魂を揺さぶる・・・・・・・・・・・・・・自分が言いたいことを言うのではなく、相手が一番言ってほしい言葉を使う
- 5 人をその気にさせる・・・・・・・・・・・・・・相手の心に火をつける本気の関わり

## <ペップトーク 4つの組み立て方>

1 ↓	事実を受け入れる(受容)	相手の感情や状況をいったん受け入れると相手の心にスペースができ、言葉を受け入れる余裕ができる。	「さっちゃん、手が震えているのね」(ピアノの発表会の前に)
2 ↓	とらえかた変換(承認)	いまを受け入れ、それをプラスの感情へと変えていく。	「それは君が本気で講演会を成功させたいと思っている証拠だよ」
3 ↓	してほしい変換(行動)	いま、その人にふさわしい言葉を。	「自分たちの力を出しきろう」 「落ち着いて最後まで問題を読もう」
4	背中へのひと押し(激励)	相手を送り出す言葉。相手の性格を考えながら、その人にふさわしい言葉を投げかける。	「さあ、行ってこい」「大丈夫、君ならできる」「笑顔でいこう」「一緒に頑張ろう」「Yes, we can!」「何があっても助けに行くから」「みんなで応援しているからね」「ゴールで待ってるよ」

以上の4つを組み立てるだけで、相手のやる気を引き出したり、相手を元気づけてたりすることができるのがペップトークの特徴。それも1分くらいの話でまとめられるため、相手も話を十分に理解し、本来もっている力を発揮できるのです。

ポジティブな言葉がけによって、子供たちにわからせ、できる気持ちにさせ、やる気をもって、内発的動機づけでその気にさせる。やってみる価値がありそうです。



### 小学校低学年体育支援事業

幼児や児童の運動の専門家が学校に来て直接指導する県の事業が安居小学校でありました。1・2年生を対象に6回シリーズで、今回は、なわとび、マット・鉄棒・跳び箱を使った運動遊びの授業でした。その中で、自分の体を自分の腕で支える力をつけることの大切さを教えていただきました。マットでは転び方の練習もありました。

### プログラミング教育

5年生を対象に、プログラミング学習のキットを使い、パソコンでプログラムの組み立て方を学習しました。

大学生のアシスタントが3名来校し、作成を支援してくださいました。来年度からは、算数や理科などにもプログラミング教育が広がっていきます。



### 保護者懇談会

お忙しい中、お越しいただきありがとうございました。また、貴重なご意見をいただき、これからの教育に大変参考になりました。今後とも、手を取り合ってお子様の成長に携わっていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。